

# 島根 更生保護

NO.160

(平成21年1月1日発行)  
島根県保護司会連合会

〈島根更生保護データ〉

保護司総数 495人

保護観察事件 200件

環境調整事件 227件

(20.12.1現在)



シロイルカのバブルリング(アクアス提供)



## 協力雇用主の拡大に 御協力を!

島根県商工会議所連合会  
副会頭 岩谷百合雄

新年明けましておめでとうございます。

私は、平成8年4月から更生保護法人島根保護観察協会の理事に、また、昨年8月から保護司選考会の委員にも加わらせていただき、微力ながら更生保護のお手伝いをさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

保護司選考会は、年2回4月と10月に開催されており、県下の地区保護司会からご推薦されました、素晴らしい保護司候補者の方の御紹介を伺うにつけ、非行や犯罪を犯した方々の更生を手助けしたいとの思いから、ボランティアである保護司をご希望される方が島根県内に多くおられることを知り、今更ながら感激いたしております。また、その選考会の中で、私の地元で昨年開所いたしました島根あさひ社会復帰促進センターの概要を松江刑務所長様よりご説明を受け、そのあと、松江保護観察所長様か

ら最近の刑事政策の一環として、法務省と厚生労働省とで保護観察中の方を積極的に雇用することでその立ち直りを援助されている「協力雇用主」の拡大を促進されていることにつきましてもお話を伺いました。刑務所を出所した方のうち、満期釈放者の57%、仮釈放者の35%の方が5年以内に刑務所に再入所している現状や、また、仕事の無い人は、仕事のある人の5倍以上の再犯率となっているという実情を知りました。

刑務所を出所した人など多数の無職者を就労により立ち直らせるためには、地域の広範囲な企業の方々が彼らの就労先(協力雇用主)になっていただくことが不可欠であり、それが、安全で活力がある地域社会の実現にも繋がるのではないのでしょうか。

島根県下には既に協力雇用主(又は協力事業主)に登録されておられる企業主の方もおられますが、未だ広範囲というまでには至っておられないようです。微力ではございますが私の年頭の抱負といたしまして、もっと多くの事業主の方に登録をいただけるように協力をして参りたいと思っております。事業主の皆様何卒御理解と御協力をお願い致します。



### 謹賀新年

島根県保護司会連合会  
会長 坂本 圭 祥

謹んで新春のお祝詞を申し上げます。

皆様方には輝かしい新春を、お健やかに迎えのことと、衷心よりお慶び申し上げますと共に、皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

本年は更生保護制度施行60周年目であり、又昨年はかつての犯罪者予防更生法と、執行猶予保護観察法が59年ぶりに整理・統合されて「更生保護法」が6月1日に全面施行という大きな節目を迎えました。脆弱から強靱へと更生保護態勢がさげられた新法であります。当然私達の保護司活動へも、保護観察処遇や事務処理についても、多分に影響が及ぶことが示されています。

こうした内外の態勢の变革を敏感にとらえ、保護司活

動に邁進せねばならないと思います。しかしながら、犯罪や非行はいつの世も絶えることはありません。その現実を真摯に受けとめ対応せねばならないと思います。

仏教の言葉に「一殺多生」(イツセツタショウ)という言葉があります。この意味は、「菩薩が一人の悪人を殺すことによって、大勢の善人を生かす」ということですが、この「一殺多生の理」を盾に取って、勝手な殺生を正当化することがあってはなりません。むしろ「無殺共生」という言葉でも作りたい。いかに悪人でも排除ではなく、社会更生を促し、共に生きることを望みたいものです。「社会から阻害された…だれでもよかった…」と殺害容疑者の言葉をよく耳にしますが「多くの人の利益や幸福をまもる為には、一部の犠牲はやむを得ない」と結論する前に、自分が本当に正しいのか、よく考えてみたいものです。

本年は牛歳。牛のように急ぐ事をせず、自分を載せている自然の力を信じ、平凡な大地をしっかりと踏みしめて歩くことを心がけたいものです。



### 初春のご挨拶

島根県更生保護女性連盟  
会長 江 角 あ き

お健やかに新春をお迎えの事と存じます。

気品高き香りに目を向けますと真紅の薔薇が二輪取り残され、その美しい色は脳の髓まで染まりその香りは心の癒されるものでありました。

“きずつきし心の子らを いだきよする 母ともなりて いくしまむ”

更生保護女性連盟は会員2,800余名と共に時の皇后の宮の御歌の御心を指標として、胸の奥深く刻み「青少年に母の愛を」のスローガンのもとに、地域に密着した活動を展開しておりますが、その組織の源を辿りますれば遠く明治の世に、東京女囚乳児保育会の活動が源流となり多彩な活動を試みつつ、今や日本更生保護女性連盟として20万人の会員を擁する大きい組織となったのであります。

創立当初から一貫した奉仕の精神で事に当りその歴史の重みに加え会員全員の弛みない努力と協力、そして行政の適切なご指導により充実した組織となりましたことを深謝いたしております。

私たちの存在意義は、犯罪予防活動のみならず、不幸にして罪を犯した人の立ち直りを支援し又更生保護事業への協力であります。活動目標の根幹は人間愛であり人間尊重であります。

現在揺れ動く社会情勢の中で、僅かな人々とはいえ凶悪な犯罪に手を染めていることは誠に悲しい事があります。どこかで目にし耳にした言葉「ナイフを持って生まれて来る人間はいない」と、そして犯罪が生まれるのも地域であり、また社会復帰を果たす場も地域社会であります。

この事を肝に銘じ、この組織を創立していただきました先輩諸姉に感謝を奉げながら明日に向かって更なる充実と一人ひとりの輝きを。

何卒、皆様方に格段のご指導をよろしくお願い申し上げます。初春のご挨拶といたします。



謹んで新年の

ご挨拶を

申しあげます

平成二十一年元旦

松江保護観察所

所長 橋本 忠夫

更生保護法人

島根保護観察協会

理事長 溝口善兵衛

島根県保護司会連合会

会長 坂本 圭祥

更生保護法人

島根更生保護会

理事長 福田 和夫

島根県更生保護女性連盟

会長 江角 あき

島根県BBS連盟

会長 長松 忠夫



# 平成20年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典

平成20年10月30日(木)松江市総合福祉センターにおいて多数の更生保護事業関係者が参加し本年度の顕彰式典が行われました。当日は、久保博務中国地方更生保護委員会委員長、岩田好二松江地方・家庭裁判所長、小林正一松江地方検察庁検事正、米井順子島根県健康福祉部青少年家庭課長、渡邊悟松江少年鑑別所長のご臨席を戴き、坂本圭祥島根県保護司会連合会会長の式辞、橋本忠夫松江保護観察所長の挨拶に続いて、永年にわたり更生保護事業に功績のあった156名の方に表彰状、36団体・248名の方々に感謝状が贈呈されました。

表彰が終わってから、受賞者を代表して中村定保護司(邑智地区)から謝辞があり、来賓としてご臨場いただいた久保委員長、岩田所長、小林検事正、米井課長(知事祝辞代読)の祝辞をいただいた後、福田和夫島根更生保護会理事長の万歳三唱により式典を終了しました。



坂本連合会長式辞



久保委員長表彰



表彰風景



大臣表彰受賞者

## 平成20年度 各種表彰受賞者 (敬称略)

### 法務大臣表彰

- 新宮 晴美(松江)
- 長永 禪教(出雲)
- 手銭 昇三(出雲)
- 和田 良一(大田)
- 中村 定(邑智)
- 杉本 健治(浜田)
- 寺戸 英夫(益田)
- 堀江 房子(益田)

- 三輪 攻(益田)
- 竹中 余志一(隠岐)

### 法務大臣感謝状

- 〔“社会を明るくする運動”民間協力者〕
- 合資会社一文字家
- 〔更生保護女性会員〕
- 小田 芳枝(飯石)
- 片山 隆子(邑智)
- 長戸 シズ子(益田)
- 〔BBS会員〕
- 前田 保志(安来)
- 浜田地区BBS会(浜田)

### 全国保護司連盟会長表彰

- 恩田 祥雄(松江)
- 越野 久茂(松江)
- 高橋 良次(松江)
- 藤原 規九郎(松江)
- 高橋 平治(雲南)
- 谷岡 美榮子(雲南)
- 成相 教専(出雲)
- 松浦 昭男(大田)
- 萩野 泰道(益田)
- 宮川 公子(益田)

### 内助功労者

- 内藤 暎子(松江)
- 手銭 美也子(出雲)
- 全国更生保護法人連盟理事長
- 〔島根保護観察協会〕
- 原本 達治
- 日本更生保護女性連盟会長表彰
- 〔更生保護女性会員〕
- 犬山 春江(宍道)
- 渡部 房子(八東)
- 中林 衣子(斐川)
- 佐藤 シズ(隠岐の島)

# 受賞者

更生保護功勞による  
叙勲・褒章（敬称略）

- 藍綬褒章 小川 豊（江津）
- 藍綬褒章 松本 貫一（松江）



## 藍綬褒章受章の榮に浴して

小川 豊

この度、図らずも藍綬褒章受章の榮に浴し身に余る光榮に身の引き締まる思いで感激いたしております。これは、偏に松江保護観察所の歴代所長様をはじめ職員の諸先生方の手厚いご指導と多くの先輩、同僚保護司の皆さんの温かい導きや支えによるものと心から感謝いたしております。それと私が長年この仕事に情熱を注いで來れたのは、保護司を拝命して間もなく担当した一人の少年が立派に立ち直り人生に成功した姿で訪ねてくれ「今日の私があるのは保護司の先生のお蔭です」と言ってくれた、その一言がどれだけこの仕事の尊さを教え励ましてくれたことか。

以後、担当者と対象者としての出会い、処遇を通しての触れ合い、必ず立ち直れると互いの信じ合いを大切に微力ながら精進して來たことが、この榮譽に浴させていただいたのかなと過去に出会い、触れ合い、信じ合ってきた人たち一人一人の顔を思い浮かべながら、この人たちの更なる幸せを祈りつつ、この度の受章の喜びをしみじみと噛みしめさせて頂いております。



## 藍綬褒章を受章して

松本 貫一

この度、平成20年秋の褒章により、藍綬褒章の榮に浴し、ただ感謝感激致しております。去る11月18日法務省に於いて授与式があり、同日午後宮中の「春秋の間」に於いて天皇陛下の「お言葉」をいただき、感激を新たに致しました。昭和61年前任の人から対象者なんか無いからと言われ、自分でも、そうだろうと思っていましたが、あれから二十数年、いろいろな人を担当することになりました。この度ははからずも褒章の榮に浴し感謝の言葉もありません。これも、ひとえに、島根県保護司会長様、松江保護観察所長様始め関係者の皆様の暖かいご指導、ご援助の賜と心から感謝申し上げます。

## 愛の図書贈呈式

平成20年11月27日松江保護観察所6階会議室において、島根県更生保護女性連盟による第48回「愛の図書贈呈式」が行われました。江角あき連盟会長、橋本忠夫松江保護観察所長の挨拶の後、下記各施設の代表の方に愛の募金による「図書」が贈呈されました。それぞれの矯正施設や児童自立支援施設等で図書に親しみ、読書を通して豊かな心を育ててもらうものです。

松江刑務所、美保学園、松江少年鑑別所、わかたけ学園、島根県更生保護会、島根県女性相談センター、中央児童相談所、出雲児童相談所、浜田児童相談所、益田児童相談所



## 新任保護司（後期）研修

平成20年11月5～6日、玉湯町「玉泉」において新任保護司38名が参加して開催されました。この研修は、面接や処遇場面のより実践的な内容、具体的には面接の方法等を学び、面接者の緊張感や不安感を軽減することで、よりスムーズに保護観察事件や生活環境調整事件の流れを作ること为目标に行われました。ロールプレイング形式により、先輩保護司の演技を参考にしながら、不慣れな様子で一生懸命それぞれの役を演じ、参加した研修員からは、初めて担当する心構えができた、対象者との面接の参考になったといった意見がよせられ有意義な研修となり、合わせて同期研修員の親睦も深めることができました。



### ノーテレビ運動

松江地区保護司会 新宮 晴美

視点

焦点

私たちの地域の「青少年育成町民会議」では活動の一つとして「ノーテレビ運動」に取り組んでいる。この運動では、テレビをまったく見てはいけ  
ないのではなくテレビやゲームに長時間接触しないで、家族との団欒や勉強の時間に切り替えるなどけじめのあるメディア接触をして欲しいと願っている。

この運動のきっかけは、一昨年、子どものメディア問題の第一人者といわれる清川輝基氏の講演会を開催したのがきっかけである。その講演の内容は、子どもがテレビやパソコンなどの電子メディアと長時間接触すると脳に悪い影響を及ぼし、ことばの発達や対人関係能力などの面で問題が生じ健全な発育をさまたげることなどかなりショッキングな話であった。そして、この講演を聞いた人から地域をあげて「ノーテレビ運動」に取り組んで欲しいとの要望があった。

そこで、昨年度より学校、PTA、地区社協など地域の関係諸団体と連携をとり「ノーテレビ運動」を展開してきた。活動内容は、各種の広報活動、学校での指導の充実、再度の清川輝基氏の講演会の開催、「テレビをけて家庭の日」と書いたのぼり旗を製作しアピールするなどして理解を深めるように努めてきた。また、「ノーテレビの歌」をつくり子どもたちが日々口ずさんだり、それをオベレックにして文化祭で発表した小学校もあった。

この運動を実施して日は浅いが、「家庭内の会話が増えた。」とか「学習時間が増えた。」などの声も耳にしている。この運動を継続することで、子どもたちが日々の家族の関わり方や家庭学習の仕方などを見つめなおすきっかけになるのではないかと期待している。

「ノーテレビ運動」をはじめ青少年育成の取り組みでは、各家庭の問題として片付けてしまわないで地域全体の問題として地域の関係団体と連携しあって運動を進めていくことが重要と考える。

### 更生保護活動の理解を願って

出雲地区保護司会 広報部会長 柳 楽 利 子

平成11年4月に旧出雲市、旧平田市及び  
簸川郡の保護司会が統合して出雲地区保護司会と称しています。統合して4年目の平成14年に会長の委嘱を受けて編集委員として創刊号第1号を発行し、第4号までは、年1回7月に発行していました。

平成18年に出雲地区保護司会の、保護司活動の充実と円滑な運営を図るために組織の再編に伴い、総務部、研修部、犯罪予防部、協力組織部、広報部の5部が設けられ、広報部は「保護司会だより」を担当することになりました。更生保護について、また犯罪のない明るい地域づくりについて出雲市と斐川町の住民の方々に理解と協力を頂くことを願い保護司活動に関する記事を取材し広報活動に努めています。

平成18年度からは7月と12月の年2回発行して今回で10号となります。広報委員は各支部から自分の意思で部員になった方ですので、広報誌の編集に造



詣の深い方や広報活動に積極的に関わって来られた方で、和気あいあい、お互いに意見を交換しながら切磋琢磨の中にも楽しい編集委員会です。各号の発行に当って5回程度の編集委員会を開催します。刷り上った「保護司会だより」を手に、各人各様の喜びを感じ更なる努力を誓い合います。

### 松江地区更生保護女性会 設立50周年記念式典・感謝祭開催される

昭和34年7月20日に会を結成して50周年を迎えるにあたり、平成20年11月9日(日)鳥根県民会館中ホールにおいて、午前10時から永年にわたり更生保護女性会活動に尽力した会員の方へ陶山会長から感謝状の贈呈などが行われ、午後1時から、会員相互の絆を深めることを願って感謝祭が行われました。1部は、会員を含む地域住民の方々による祝吟、剣舞、箏曲、ヴァイオリン独奏があり、2部は社会を明るくする運動キャンペーンソング「ひまわりの譜」を唄っている歌手五鳥つばきさんの歌謡ショーがあり、最後に「ひまわりの譜」を合唱して午後3時過ぎに盛会裏に感謝祭を終了することができました。



### 保護司/特別/研修 「犯罪被害者等の心情を理解するために」が開催される

平成20年10月21日(火)午後1時から2時30分にわたって松江保護観察所6階会議室において開催されました。昨年12月から全国の保護観察所における犯罪被害者等施策が実施されて1年が経過するに当たり、重大な犯罪を犯した加害者の生活環境事件又は保護観察事件を担当している保護司を対象とし、観察所所在地の保護司、更生保護女性会会員、島根更生保護会職員の方々の聴講者合わせて50余名の参加がありました。

外部講師としてひょうご被害者支援センター支援コーディネーター堀口節子氏による「被害者の心理とその支援」についての講話も行われ、犯罪被害者等がおかれている状況やその心情について理解を深めることができました。



### 作文コンテスト入賞者

応募総数307点(小学校112・中学校195)

#### 【小学生の部】

- 最優秀賞(島根県実施委員会委員長賞)  
三浦 彩星(江津市立高角小学校6年)「わたしにできること」
- 優秀賞(島根県保護司会連合会長賞)  
三原 大樹(斐川町立中部小学校6年)「ゴミ拾い」
- 優秀賞(更生保護法人島根保護観察協会理事長賞)  
平田 海帆(出雲市立塩津小学校6年)「つながりを持って」
- 優秀賞(島根県更生保護女性連盟会長賞)  
山根由記子(東出雲町立掛屋小学校6年)「地域の方に見守られて」  
日下 穂南(出雲市立四路小学校6年)「私の大好きな言葉たち」
- 優秀賞(島根県BBS連盟会長賞)  
渡邊 拓己(出雲市立高松小学校6年)「人それぞれ違うことの素晴らしさ」  
石川 咲希(益田市立吉田小学校6年)「明るい未来のために…」
- 優秀賞(山陰中央新報社賞)  
牧山 望(松江市立大庭小学校6年)「犯罪のないよりよい社会」  
勝部 未咲(斐川町立中部小学校6年)「車イス」

#### 【中学生の部】

- 最優秀賞(島根県実施委員会委員長賞)  
藤田 勇飛(隠岐の島町立西郷中学校1年)「友達」
- 優秀賞(島根県保護司会連合会長賞)  
岡口 成美(江津市立桜江中学校3年)「私たちに必要なこと」
- 優秀賞(更生保護法人島根保護観察協会理事長賞)  
藤野 充(隠岐の島町立布施中学校3年)「一歩踏み出す勇気を」
- 優秀賞(島根県更生保護女性連盟会長賞)  
古川 真美(斐川町立斐川東中学校1年)「「当たり前」なこと」  
中田 有紀(江津市立青陵中学校2年)「家族の絆」
- 優秀賞(島根県BBS連盟会長賞)  
家塚 佳織(松江市立本庄中学校2年)「立ち向かう勇気」  
日下紗也子(出雲市立浜山中学校2年)「みんなで出る杭に」
- 優秀賞(山陰中央新報社賞)  
竹林 雄太(松江市立美保岡中学校2年)「つながっていくこと」  
山崎 文也(島根大学附属中学校3年)「お年寄りを大切に社会へ」

☆小学校・中学校それぞれ島根県実施委員会委員長賞、島根県保護司会連合会長賞、更生保護法人島根保護観察協会理事長賞の計6作品は、中央実施委員会への推薦作品としました。

### 保護司の異動

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| <b>【退任保護司】</b> 9名  | 佐瀬 道淳(安来)    |
| (平成20年9月24日)       | 寺戸 英夫(益田)    |
| 板倉 秀治(出雲)          | 佐藤 シズ(隠岐)    |
| (平成20年10月8日)       | 田部美代子(雲南)    |
| 坂本 照良(浜田)          | 上野 朝明(浜田)    |
| (平成20年11月30日)      | 橋本 光弘(益田)    |
| 内藤 康夫(松江)          |              |
| <b>【新任保護司】</b> 21名 | (平成20年12月1日) |
| 岸本 淳(松江)           | 永妻 壽則(浜田)    |
| 木下 英樹(松江)          | 廣瀬 美子(浜田)    |
| 周藤 景子(松江)          | 盆子原民生(浜田)    |
| 吉松 大祐(松江)          | 松浦 三男(浜田)    |
| 渡部 功(松江)           | 三瀧 香順(浜田)    |
| 佐瀬 宏洋(安来)          | 村上 博行(浜田)    |
| 鐘築 伸正(出雲)          | 村川 立美(浜田)    |
| 神田修一郎(出雲)          | 和原 勝博(浜田)    |
| 妹尾 邦昭(出雲)          | 椋木 亮治(益田)    |
| 藤田 努(出雲)           | 小田 泰史(隠岐)    |
| 王子 幸子(浜田)          |              |

### ご支援ありがとうございました

- |                |              |
|----------------|--------------|
| (島根保護観察協会)     | 敬称略          |
| 佐瀬 道淳 100,000円 | 小川 豊 30,000円 |
| (島根県保護司会連合会)   |              |
| 佐瀬 道淳 50,000円  |              |

(表紙写真説明) シロイルカ3頭による幸せのバブルリング®水族館「アクアズ」のシロイルカ。1日数回あるパフォーマンスでは、ダイバーのサインで泡の輪っかを吹き出す「幸せのバブルリング®」をご覧いただけます。また、平成20年11月にはペンギン館が増築オープンしました。

### 慶弔

下記の元保護司の方がご逝去されました。  
ご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。  
山口 吉衛(松江)平成20年10月7日  
安田 順明(出雲)平成20年10月8日